

行田 歴史系譜 289

歴史を語るこの「いっぴん」
博物館の収蔵庫から

25

一中ゆにおん、戦後教育の黎明

行田市郷土博物館所有

昭和22年（1947）4月1日、学校教育法が施行され小学校6年、中学校3年、高等学校3年、大学4年となり、六・三・三・四制の単線型学校体系が始まりました。これにより義務教育は9年間となり、全国の市町村に新制中学校が設置されることになりました。現在の行田市市域でも旧町村ごとに中学校が置

かれましたが、短期間での設置であったため、単独での校舎を用意することが難しく、多くは小学校に校舎を間借りする形でスタートしました。

管下に4つの小学校を持つ忍町では、第一中学校から第五中学校までの5つの中学校を設置し、翌年4月に3つに統合し、第一中学校から第三中学校としました。このうち第一中学校は佐間にあった染工場跡地に仮校舎を

建て本校として新1年生が入り、2年生以上は南小学校（現・中央小学校）の校舎の分校に間借りしました。

そのような中で、第一中学校の生徒が発行した学校新聞が県内学校新聞の元祖ともいわれる『一中ゆにおん』です。新聞の名前は本校と分校に分かれた生徒の意思疎通を図る意味を込めて命名されました。発行の理念として、①基本的な人権の尊重、②生徒間の相互理解、③課外活動全般の情報伝達の3点を挙げています。刊行は昭和23年（1948）9月からではぼ一週間に一回のペースで発行されました。その内容は学友会の活動や研究観察、社会問題など多岐にわたり、発足当時の中学校の学校生活を詳細に記述しています。



一中ゆにおんNo.1 (昭和23年9月20日)

当時、忍町立第一中学校は関東軍政部から県内唯一の週5日制のモデル校に指定されており、選択科目の拡大や社会体験活動の重視など、独自の教科課程の編成作業を行い、昭和23年9月から実施しました。「一中ゆにおん」は、まさに戦後の新しい教育を築きあげていく真ただ中で刊行された中学校の学校新聞として、教育史の中でも貴重な資料といえるでしょう。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

特定非営利活動法人 さくらメイト

高齢者と子育て家庭が安心して暮らせるご近所を復活させる「コミュニティビジネス」を指導・実践するため、桜町の商店会である二桜商和会が中心となり、平成16年度から活動を続けているのが特定非営利活動法人さくらメイトです。同会の主な活動は、市から委託されている「高齢者や障害者の方々向けの宅配弁当サービス」です。栄養バランスのとれた食事の提供と見守りを目的に、地元で採れた農産物を使った手づくりのお弁当を一人暮らしの高齢者などに届けています。これまでに配達した弁当の数は、実に132,000食以上。自宅で倒れていた高齢者の救助や孤独死の早期発見につながったこともあり、離れて暮らす家族からも頼りにされているそうです。また、集会所などで定期的に食事を開催することで、孤独感の軽減や外出することによる介護予防の促進にも努めています。

さらに今後は、市内の企業が新たに開発した見守り装置を活用し、人の動きや温度などを感知するセンサーにより、きめ細やかな安否確認を目指していくとのこと。これからも、さくらメイトの活動はたくさんの人々に安心と喜びを届け続けることでしょう。

【代表理事】関根 裕宣 【電話番号】577-3085

つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～16



お弁当づくりの様子

今月の表紙

3月17日、第29回行田市なわとび大会が行田グリーンアリーナで開催されました。

今年は市内の小学生522人が参加。個人種目・団体種目合わせて9種目で記録の更新を目指しました。団体種目の長なわ10人並びとびでは、チームで呼吸を合わせ、掛け声とともに力いっぱい跳んでいました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。

